

ムクドリとの共存

3年4組28番 松尾朋美
3年5組25番 福原美音
3年5組30番 松岡愛美

Keyword: 「ムクドリ」「共存」「糞」「人間」

1. はじめに

私たちがこの探究テーマにしたきっかけは、鳥の糞被害にあっている人の話を聞き、他にも困っている人がいるのではないかと思ったからだ。まずはじめに、その人の住んでいる地域の糞被害について調べたところ、その地域の主な糞被害の原因はムクドリであることが分かった。では、なぜムクドリたちは街に降りてきてしまったのだろうか。本来ムクドリは、天敵の少ない森や山に拠点を置き、畑などの害虫を食べていたことから益鳥として扱われてきた。しかし現在では、ムクドリは通学路などに糞を落とすため害鳥として扱われる様になってしまっている。この問題を解決する方法はないのだろうか。また、再びムクドリと人間が共存する道はないのだろうか。

2. 序論

・目的

今日、人はムクドリと共存することができるのだろうか。また、身の回りでどのような対策が行われているのだろうか。

・資料と方法

まず、私たちはムクドリの生態や被害について知るために奈良市が配信している動画やサイトなどでムクドリの被害、そして被害への対策などについて調べた。その後、実際にムクドリの対策を行っている「奈良市保健所（はぐくみセンター）」（写真1）を2023年2月19日に訪問し、奈良市の取り組みについてお話を伺った。また、私たちにできることは何かと考え、校舎内で鳥の糞の掃除を行った。方法としては、まず糞に含まれている菌が飛散しないように消毒液をかけ、その上から身近にある製品を使いブラシで擦ることで、どの製品が糞を落としやすいか、また糞を落としやすい製品にはどのような特徴があるのかを調べた。



(写真1)

3. 本論

・結果と分析

▼：奈良市の保健所への訪問

現在奈良市では、ムクドリ対策として電線に鳥が止まらないようにするトゲ状のカバー(防鳥プロテクター)、猛禽類の置物の設置、録音したムクドリの悲鳴を用いた対策などを行っている。このような対策を行いムクドリの密集を分散させているが、それは根本的な問題解決には繋がらなかった。

▼：糞掃除

奈良市の保健所への訪問を通して一時的ではなく、持続的にムクドリと共存できる方法を考えた。その結果、特に被害が大きかった糞問題に焦点を当て、以下の実験を行った。

[実験道具]

- ・歯ブラシ
- ・消毒液（糞の細菌が空気中に飛び散らないようにするため）

A：アルカリ性

- ・食器用洗剤（majica）
- ・キッチン用洗剤（マジックリン）
- ・クレンザー

B：酸性

- ・ポッカレモン
- ・酢

[実験方法]

- ①消毒液を糞に吹きかける。
- ②Aの物質をそれぞれ糞にかけ、歯ブラシで擦る。
- ③それぞれどの程度汚れが落ちているかを記録する。
- ④Bも同様に行い、記録する。
- ⑤A、Bそれぞれの結果を表にまとめる。

[実験結果]

	落ちやすさ	値段	手に入りやすさ	ph
酢	○	194円/500ml	◎	3
ポッカレモン	◎	181円/70ml	◎	2
クレンザー	○	173円/400g	○	9
majica (食器用洗剤)	△	210円/220ml	◎	7
マジックリン (キッチン用洗剤)	○	269円/400ml	◎	12

(図1)

・考察

(図1) より酸性やアルカリ性の力が強くなるにつれて汚れも落ちやすくなったことから、pHの強さは汚れの落ちやすさに比例すると考えた。また、人間の皮膚と同じように鳥の糞にはたんぱく質が含まれているため、強い酸性やアルカリ性と反応することで汚れが落ちたと考えられる。

4. 結論

- ・まとめ（要約）

ムクドリと人間が共存するためには人間がムクドリを受け入れ糞掃除などを行い、より良い環境を作ることが大切である。

- ・今後の課題

ムクドリが害鳥として認識されるのではなく、益鳥として認識してもらうためにSNSなどを用いてより多くの人にムクドリの現状を知ってもらい意識改善に努めたい。

5. 参考文献・出典

- ・ <https://dictionary.goo.ne.jp/>(2024年3月5日)

- ・ <https://ecorobeam-takemaru.com/>(2024年4月26日)

- ・ 鎌田 正喜, 早川 潤 「酸塩基指示薬としての黒米および黒小豆の活用小中学校教員のための理科実験教材の開発」 <https://niigata-u.repo.nii.ac.jp/>(2024年5月24日)